

エー ジー ファイブ AG5 だよ

ダラス補習授業校での実践と成果

ダラス補習授業校教諭 (AG5コーディネーター) 佐藤 恵美・バーバー悦子

本校がAG5「補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発」の研究提携校として歩み始めてから、はや1年が過ぎようとしています。現在、ダラス補習授業校の在籍者数は国際部含め、幼稚園から高等部まで全校で600名を超えようとしています。1年前と比べると約100名の増加です。これに伴い、子ども達の状況は更に多様化してきています。

教室内を見渡すと、数年後には日本に帰国する子ども達、長期滞在の子ども達、永住する子ども達と、様々な背景を持ち、かつ日本語の習熟度には違いがあります。しかし、「日本語を伸ばし、日本語で学力を向上させたい」という願いは皆同じです。



佐藤 恵美



バーバー悦子

AG5の補習校プロジェクト チーム(以下、AG5チーム) とダラス補習授業校の出会い

実際に本校の現場に目を向けると、「身に付けている日本語力」が異なり、なおかつ将来「必要とされる日本語力(目指すレベル)」が異なる子ども達が一つの教室で同じ教科書を使って授業を進めていくことには様々な困難や課題がつきまといまふ。これらは補習校で指導されている多くの教師にとって、またそこで学んでいる子ども達にとっても共通の悩みであり課題でしょう。

このような状況下にあっても学び続ける子ども達を目の前に、どうしたら補習校で効果的な指導が出来るのか。多くの教師が、そんなさまざまな思いを抱えたまま毎週の授業を進める中で、本校はAG5の補習校プロジェクトと出会うことになりました。あれから一年が経ち、今まさに、ダラス補習授業校はカリキュラム変革の時を迎えようとしています。

一年間の流れ

① AG5チームが本校を訪問

(二〇二七年十一月)

本校におけるプロジェクト授業実施に際し、学習活動計画書の作成、学習指導の助言等のサポートをしてく

ださるAG5チームの五名の先生方と初めて出会ったのがこの時でした。まずは、本校の全教職員を対象に

AG5全般と補習校プロジェクトの概要および、新学習指導要領の内容や今後の日本の教育界の目指すところ等を説明していただきました。そして、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」のためのアクティブラーニングの一つとして「ジグソー法」(各々の学びを持ち寄り全体像を浮かび上げながらしていく協同学習)を体験しました。

講師をされた方々のテンポ良い指導に感銘を受けたと同時に「こんな指導方法もあるのか」と感動を覚えたことを鮮明に覚えています。更に、「子ども主体の授業」に活用できるデジタル教科書のデモンストレーションも見学しました。これを機に本校でも国語と社会のデジタル教科書を導入しました。

② 小学部四年での「社会と国語の合科授業」実践(二七年十二月〜一八年一月)

教科学習を通して日本語力の向上も図る「教科と日本語の統合学習」の考えで計画を作りました。

本校では毎週一時間、社会科学の授業が組まれています。従来は一斉授業で、教師が教科書の内容を説明し

たり、子ども達はその内の重要事項を覚えたりと、教師主導の一方的な授業形態が主流でした。

今回の社会と国語の合科授業では、子ども達が主体的に活動できる場面を設定しました。まず、社会科学習では、グループごとに都道府県についてのクイズを出し合ったり、ダラスや以前に自分が住んでいた場所について話し合ったりしました。子ども達は本来、クイズや自分について話すことが大好きであり、クラス全員の前で発表するのではなく、グループ内で話す方が緊張なく出来るので、意欲的に交流が進みました。

次に、自ら選んだ調べ学習の成果を持ち寄り、ジグソー法的にグループ内で発表しました。自分の持つ情報や他の人と繋がることで、更に知識や理解が広がり、深まりました。

最後は、グループで問題を作りクイズ大会をしました。子ども達はそれぞれに頭をひねりながら問題を作り、クイズに積極的に答えようとしていました。このように、毎回の授業で子ども達主体の活発な思考活動や言語活動が繰り広げられました。

国語科学習では、社会科学で調べて分かったことを報告書に書き、ポスターにまとめて発信する活動(ポスターセッション)に発展させました。



積極的に活動する子ども達

「書く」課題を支援する語彙や文型が示されたワークシートで、何を書けばよいか明確になり、日頃は日本語で書くことに苦労をしている子ども達も書きやすかったようです。ポスターセッションでは、子ども達は初め多少緊張していましたが、何度も話しているうちに慣れてきて、練習を重ねるごとに発話量が増えて良かったと思います。自ら興味関心を持ったことを調べ、伝えたいことを工夫して示したポスターはそれぞれの個性が出ていて、とても変化に富んでいました。そして、発表を通して交流することでポスター内容だけでなく、お互いを理解することに

も繋がっていきました。

今回の合科授業では、子ども達は一貫して主体的に楽しそうに授業に臨んでいました。なかなか書くことが決まらなかつたり、どう書いていいか分からなかつたりした時は、グループ内で協力し合う様子も多く見られました。

調べ学習に対して子ども達からは、「みんな同じことを調べていると思つたら違つていて面白かった」、「このような学習活動を「また、やってみよう」などの声が上がっていました。今回は保護者の方々の協力も得られました。ポスターセッションに際しては、家庭で発表の練習をしてもらつたり、発表時には、オーディエンスになってそれぞれの発表を聞いて発表者の子ども達に質問を投げかけたなどしていただきました。

今回は補習校プロジェクトの授業を実践する機会を得て、自分一人ではなかなか思いつかない新しい授業形態を実践できただけでなく、同僚の教師達の支援を得て試みることで良かつたと思います。

③ダラス補習授業校教員の日本研修 (二八年一月)

AG5プロジェクトの一環として、本校教員が日本で研修を受ける機会を得ることが出来ました。日頃、指

導に関する様々な課題を抱えていても、他の補習校はおろか、同じ補習校内でも互いに学び合うことが難しい中、日本の学校現場で実際に授業見学が出来る研修は大変貴重なものとなりました。

見学先は、帰国子女教育に力を入れている学校や、アクティブラーニングの授業や最先端のIT機器を活用した授業を実践している学校でしたので、今後に向けて多くの収穫がありました。

今回の学校訪問を通して、未来の「グローバル人材」として帰国生への期待度がかかなり高いことが分かりました。受け入れ校では、帰国生を国内生と比べ、「しっかりと考えることが出来る」(現地校でも鍛えられている)、「自分の意見がしっかりと見える」(積極性があり、自分の意見を発表することに慣れている)、「リーダーシップ性に優れている」(主体的に動ける)と評価しています。

補習校の外に出ることで、普段はつい見過ごしてしまっている補習校の子ども達の素晴らしい姿に改めて気付くことができました。子ども達あってこそその教師です。これからも希望と可能性に満ちた子ども達の指導に今まで以上に邁進していくことを心に誓い研修を終えました。

④岡村郁子氏講演会(一八年六月)

多くの保護者の方々が、様々な悩みを抱えながら海外で子育てをしています。AG5チームの岡村郁子氏(首都大学東京准教授)の講演会はそういった保護者にとって、まさに「知りたかつた情報」が得られる貴重な機会となりました。以下、参加した方々の感想を紹介します。

・ダラス補習校の先生方はAG5プロジェクトに率先して協力されていて素晴らしいと思います。駐在員の立場からすると、帰国子女校での入学が出来たとしてもその後、日本語の授業についていけるかどうかの心配が尽きません。子ども自身が日本に興味があれば、自然と日本語を聞く機会は増えますが、家族間の会話だけではそれほど語彙が増えていかないのが現状です。下の子は英語が強いので、今から思うと幼い頃から『家庭では日本語のみ』をもっと徹底すべきだったと感じます。岡村先生の話聞き、これからは「日本語に直して話す」を子どもにも根気強く働きかけていこうと思います。週に一度しかない補習校ですが、そこでもしか会えない友だちがたくさんいますし、楽しく勉強できている環境があることを嬉しく思っています。

・岡村先生の講演会を聞き、日本の

学生の現状（世界的比較における語学力の低さ、留学生の減少など）が、想像以上であったので驚きました。

ネット社会が進む一方で、日本国内における英語教育の難しさが依然としてあることも分かりました。また今回、政府をあげてグローバル人材育成の対策を行っていることも知り、その取り組みが今後もっともっと広がっていくことを望みます。帰国生を持つ親としては、日々遅れてしまう学習（社会科を始めとする日本の学力など）がいついつい気になってしまふところですよ。しかしこれからは帰国生が持つ素晴らしさにも目を向け、その良さを本人にも意識させ、自己肯定感を高めることが大切だと改めて思いました。その意味でも補習校は、帰国生の持つ素晴らしさにより磨きをかけ、帰国生としての意識を高めるためにもとても大切な場所だと感じました。

⑤合同研究会（一八年八月）
「多様な児童生徒と一緒に楽しく日本語を学ぶ授業づくり」補習校ネットワークを力に「」を主題に掲げ、協力校の先生方と本校の教師達で研究会を実施しました。

日本からは、AG5チームの渋谷真樹氏（奈良教育大学教授）と同じく今澤悌氏（甲府市立大国小学校教



真剣に研修に臨む参加者達

諭を講師として迎え、講演をしていただきました。また、参加者達もアクティブラーニングを体感するということで、「授業力向上ワークショップ」も実施されました。

初めての試みでしたが、会場からは「他校の先生からアドバイスをいただき、色々な悩みを解決する助けになった」「研修の機会が少ないので、このような合同研究会は刺激を得て意欲がわいてくる。とても勉強になり充実感でいっぱい」「このような会が定期的に来たら良いと思う」「補習校同士の繋がりが（指導案）など、フェイスブックでもっと盛んに交流できると嬉しい」等、今後も他校の先生方と繋がる場が増えていくことを希望する声が多く聞かれました。

この会を機に同じ志を持った先生方が各地に広がり、補習校のネットワークが広がっていくことが期待されます。

二〇一八年プロジェクト授業

昨年度は小学部四年のみで実施したAG5プロジェクトの授業ですが、今年度は小学部四年に加え、五年、六年の三学年に広がりました。この授業実践により、今までは行われていなかったアクティブラーニングやジグソー法、ポスターセッション方式の発表会など、「子どもを主体にした」授業法に挑戦しています。これらの手法は、異なる学年や単元にも活用可能ですので、今後、校内に広げていくことを目指します。

今年度は、昨年度に比べ教師間でもAG5プロジェクトの理解が深まってきました。初めてアクティブラーニングを取り入れた教師は、「こういう授業の仕方もあるのか」と驚きと新鮮な思いを持ったそうです。また子ども達も楽しそうで、今後の新しいスタイルの授業へと繋がる手ごたえも感じているとのことですよ。

二〇一八年学年研究会

AG5チームと協力校から先生方をお招きして、プロジェクト授業の

実践と授業見学、そして事後研究会を、今後も本校で実施します。

協力校から参加された先生方と有意義な研究の場を共有することが出来た八月の合同研究会に引き続き、秋冬に行われる学年研究会でも、より一層、現場の授業に役立つ指導法やアイデアの共有が可能となること期待されます。

主催校である本校を発信元として、より多くの補習校の先生方と、未来を担う子ども達の教育に取り組んでいけたらと考えています。今まさに補習校の輪が少しずつ、しかし着実に広がるうとしています。

おわりに

この一年間、一步一步出来ることを進めてきた結果、私たちダラス補習授業校での実践とAG5の補習校プロジェクトの軌跡が確実に重なり合い、力となっていることを感じています。これは、現在、二年目の取り組みを進めていくうえでの原動力となっているのと同時に、今後のAG5のプロジェクト展開への希望に繋がっています。

今後もより多くの協力校の先生方と繋がりをもち、「すべての補習校で学ぶ子ども達」のためになるよう歩みを進めていきます。